

奈良教育大学同窓会会報

まほろば

第 25 号



目次

○会長挨拶、平成24年度活動方針	2
○学長挨拶	3
○平成23年度同窓会一般会計計算書	4
○同窓会総会	5
○同窓会だより	6
○研修会だより	10
○第13回研修会のご案内	11
○表紙の絵について	11
○事務局だより	12

2013年
同窓会総会のご案内

■と き
平成25年5月19日(第3日曜日)
午前10時から

■と ころ
奈良教育大学 山田ホール 他

○出席者は、準備の都合上、
5月10日(金)までに事務局へ
お申込みください。

◆ ご挨拶 ◆



春山を背負った高畑の地。若葉のあふれる大学構内、新築なった山田ホールに今年も130名に及ぶ同窓生と大学関係者を迎え平成24年度総会をもちました。

会長をお引き受けして2年になりますが、他大学同窓会の状況もいくぶん知ることができました。母校の創立記念事業に数百億円も

の基金を達成した超優良同窓会もあるようですが、多くは活動の維持と会員の現況把握に苦勞されているようです。本会は今年の卒業・修了生を含めると24,759名の延べ会員数に達しました。創立123年の前身校出身者、物故者を含めた数字です。現在、連絡可能な会員数は13,978名です。この数字は延べ会員数の56パーセントに達し、同窓会の会員把握率としては誇るべき数字のようです。創立100周年に当たり整備した名簿が基礎となっていますが、常日頃の事務局の努力の表れで、本会の一大財産ともいえるべきものです。120周年事業の遂行にあたって同窓会として貢献できた礎でした。

ここ2年間の同窓会、とりわけ本部の活動は従来に比べて元気がありません。本部の財政事情が急激に弱くなったのが大きな理由です。そこで今年度の総会にあたっては、そうした点の若干の改善を試み、本会の体制を整理し現状に近づけるべく、会則の一部改正をお願いしご承認いただきました。

改正提案の一つは、会費の増収についての工夫です。年会費を一口1,000円2口以上をお願いしようとするものです。現今の社会情勢では、全面的な会費値上げはとうてい受け入れられないものと判断しました。結息なやり方とのご批判もあろうかと存じますが、母校を想う会員のご好意に期待したいと考えた窮余の一策です。もちろん今まで通り2口2,000円でも結構です。お手元の状況によって、年によって口数を変えていただいても結構です。できれば3口、4口とご協力下さればと、お願いする次第です。ただし入会金は1,500円を2,000円に値上げさせていただきます。

提案の二つ目は、年次代表が当初の期待と離れて機能が失われているので廃止した点です。卒業年次で横のつながりを、居住地あるいは勤務地の区切りで縦のつながりをと工夫したものです。しかし小さな母校とはいえ、近年の学科あるいは課程の構成が多様化し、また卒業生も全国的に拡散するようになり、数名の年次代表では把握でき難

会長 西田 史朗

い状況になっていました。代表の選出も思うようにできないので、今回実態に近づけようとしたわけです。

三つめは、本会を構成する会員の出身校に関わる記述を簡略にしました。すなわち「興東会、和光会、奈良青年師範学校同窓会の会員および奈良学芸大学、奈良教育大学」を「国立大学法人 奈良教育大学とその前身校」としました。

また客員に関わる第4条を削除しました。旧会則の客員との関わりが、ほとんど実態のないものと化し、客員相当の方も近年では第3条の「それに準じる者」として処遇させていただいてきた実態と経緯を踏まえたものです。

今回の会則改正によって、本部活動が急速に活発化するとは思えませんが、出来ることから着実に実行に移してゆきます。先ずは会員相互の交流の活性化です。「会報まほろば」の充実、今年も経費の関わりで年1回の発行となりますが、いささかでも内容の充実に努めます。郵送料が大きな負担となっています、ご理解下さい。その代わりとして「同窓会ホームページ」をいっそう活用したいと考えます。インターネットもかなり普及した昨今、手近なものに成りつつあるのではないのでしょうか。現行版は高齢会員の手作りで作成されたレイアウトですが、低いコストが魅力です。目下のところは取材源が限られ、新鮮な話題が少ないですが、更新の頻度は情報次第です。会員のみなさまからの話題提供をお待ちしております。この件の詳細については、ホームページあるいは会報をご参照ください。

次に、支会活動のいっそうの活発化を期待しています。支会の活動も年々多様になっているようです。会員相互の懇親と共に、教養を深める機会としておられる支会も増えています。長友学長も時間の許す限りご出席下さり、大学の現状をお伝え、親交を深めて下さっております。本部としても何かお手伝いできればと願っています。

同窓の絆、とりわけ若手会員の奮起と目覚めを促したい。職場で、家庭で、仕事に、子育てに、趣味に、ボランティアに、と現職世代の方々には、同窓会どこでなくのお気持ち、よく分かります。地域に、社会に繋がるチャンネルの一つとして大学を、同窓会を思い出していただければいいです。先ずは横のつながりとしてクラス会から、同期会から始めようではありませんか。教室で、専攻で、学科単位と、縦のつながりに成ればうれしいことです。どなたか、言い出しっぺになって近くの方に呼びかけて下さいませんか。単縦が複縦に、さらにはネットワークになることを願います。

人と人とのつながり、同窓会はそうしたつながりの結節点として機能できればと願っています。

平成24年度 活動方針

本大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間8年を経過し、第2期間へ更なる発展を目指して邁進されている。同窓会としては、本来の目的に従い、大学の運営方針に寄り添って協力し、同窓生の心のより所として前進していきたいと考えています。

理 念

- 会員相互の触れ合いを大切にして、親睦を深める。
- 学び合い語り合う場を設定し、互いに教養を高める。

重点目標

1. 会員意識の昂揚をめざし、会費納入の徹底を図る。
2. 支会活動の活性化をめざす。
3. 年次同窓会の組織運営を強化する。
4. 大学の発展に思いを致し協力する。

教員養成の高度化

学長 長 友 恒 人

同窓会会員の皆様、奈良教育大学への物心両面にわたるご支援に心から感謝申し上げます。

新年度を迎え、昨年の「まほろば24」号でも申し上げました学部改組に基づく新生が入学して、新しい教育課程がスタートいたしました。かつての「予定調和型」、「師の背中を見て学ぶタイプ」の教員養成スタイルは「今は昔」の語り草となったと言ってもいいでしょう。今回の改革は、これまで徐々に進めてきた「実践型・体験型」の教員養成を本格的にスタートさせた、ということになります。1回生の必修科目「教職入門」では「恩師訪問」を課すことになっています。会員の皆様を訪問させていただくこともあるかと思います。この折には、よろしくご指導をお願いいたします。

さて、1970年代までは世界の先進であった日本の教員養成ですが、その後の「改革」において大きな進展をみせることはありませんでした。今夏に予想される中央教育審議会の答申（または「まとめ」）では、学生時代だけではなく、生涯にわたって学び続け成長する教師像がイメージされています。養成・採用・現職の全期間にわたる「学び」を全面的にとりあげた中教審答申は初めてではないかと思います。奈良教育大学では、学部の新しい教育課程に基づく教育がスタートしたばかりですが、引き続き、教育委員会や学校との連携を軸に据えつつ、「教員養成の高度化」に向けた検討に着手いたしました。会員の皆様のご助言、アドバイスをお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と同窓会のご発展を祈念し、母校のために物心両面からのご支援とご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。



本学講堂

平成23年度 奈良教育大学同窓会一般会計決算書

(平成23年4月1日～
平成24年3月31日)

23年度の会計決算は下記のとおりです。予算額ならびに比較増減は省略しました。

(歳入の部)

款	項	収入額(円)	備 考
会 費		4,403,740	
	1 通常会費	4,032,240	2,000×390 1,921×419 1,880×1,302
	2 入会金	187,500	1,500×125
	3 臨時会費	184,000	2,000×92 (総会参加費)
寄付金	寄付金及び広告料	12,133	一日親睦見学会残金
繰越金	前年度繰越金	0	
利 子	利子及び雑収入	68	利息
合 計		4,415,941	

(歳出の部)

款	項	支出額(円)	備 考
事務費		1,568,341	
	1 報酬	960,000	事務局長報酬
	2 諸手当	300,000	交通費・諸手当
	3 役員旅費	276,440	役員会旅費等
	4 備品費	0	
	5 消耗品費	6,401	金銭出納帳・模造紙等
	6 通信費	25,500	ハガキ・切手等
会議費		356,583	
	1 役員会費	29,583	本部会・理事会・評議員会・委員会等
	2 総会費	327,000	放送機器操作・懇親会費等
事業費		2,275,383	
	1 会報発行費	2,083,849	会報「まほろば」24号発行
	2 会員慶弔費	17,409	
	3 新会員歓迎費	76,000	入会歓迎会費・記念品(筒)
	4 事業活動費	98,125	一日親睦見学会
	5 事業基金	0	
予備費		25,500	
	予備費	25,500	
合 計		4,225,807	

差引現在高 4,415,941-4,225,807=190,134

会費納入についてお願い

同窓会の年会費は一口1,000円、2口以上です。下記の何れかの方法で納入して下さるようお願いいたします。

1. 直接現金。
2. 同封の振替用紙をご使用ください。
(振替先は00900-2-9400です。
できればATMを利用してください。)
3. ゆうちょの貯金口座を持っている方は
通帳やカードを使って手数料無料で
送金できます。

監査報告

平成23年度の会計資料について監査をいたしましたところ、諸帳簿等はよく整備され、正確適正に処理されていたことを認めます。

平成24年4月6日

会計監査 小柳 博文 ㊞

峯田 孝治 ㊞

小川前会長旅立たれる

昭和39年卒 松原さおり

小川クニ子前会長が2011年12月旅立たれた。同窓会衰退の憂き目を見ながらの9年の歳月を持ち前の芯の強さでやって来られた。先生のバイタリティーには憧れていたが、結婚生活の日数も浅く先立たれた夫君を、今尚最愛の人と恋い焦がれておられるお顔は楚楚として言いようもなく愛らしく、生家を出る花嫁を思わせた。思わず「行ってらっしゃい」と声をかけ、嫁を花婿のもとに送り出す母親のように私の胸に複雑に熱いものが込み上げた。

小川先生、どうぞお幸せに。

同窓会総会

絆をつむぐ楽桜混声合唱団

昭和30年卒 喜多 園子

うさぎ追いし かの山

こぶな釣りし かの川〜♪

それ相当地に年輪を重ねた大先輩の顔が、童心に返って生き生きと輝いて見える。同窓会参加者130名が、私たち合唱団に合わせて、被災地に届けとばかりに大きな声を張り上げて「ふるさと」を共演頂くことができた。

今、日本中の人々が願っていること、それは、やはり被災された人々が一日も早く懐かしい自分の故郷に帰り、安心して暮らしを立て直して頂くということ、その一語に尽きる。同じ願いを込めて、

会場の皆様と共に大合唱できたことに大きな感慨を覚えさせて頂いた奈良教育大同窓会の一齣であった。

昨年に続いて2回目の演奏会で、今年は嬉しい収穫があった。ご参加の皆様から合唱団員を募集したところ、何とお二人の“男声”をゲット！その名はNさんとTさん。名前をはっきり書くと期待が大きすぎてお困りになってもと控えさせて頂くことにして、来年5月の演奏ステージにお顔が並ぶことをどうぞ楽しみに。またお逢いしましょう。



同窓会だより

38年振りの同窓会

昭和48年卒 森本 玉枝

事務局長の杉本さんから、「学年同窓会をする学年がめっきり少なくなったのが寂しい。」と聞かされました。私たち「昭和48年卒」も、課程等で集まる機会はあっても学年同窓会はしていません。そこで、還暦を過ぎ、多くの人が定年退職を迎えた平成23年秋に学年同窓会を企画しました。

幹事は、小学校課程2名、中学校課程4名、幼稚園課程1名、特設課程2名の9名で組織し、会の名称を「昭和48年卒同窓会」とすること、48年以降の卒業でも同期に入学した人がわかれば案内すること等を話し合い、案内状の作成から作業を始めました。

住所の手がかりは、大学が平成12年に作成された名簿でした。ところが同窓生229名のうち、住所の記載がない人が19名、亡くなった人が5名おられました。また「宛先不明」で返ってきた案内状も20通を超え、さらに、各課程共通の恩師は全て退官されていました。改めて38年の年月の長さを痛感し、これだけ経過してしまった今、何人くらいの方が出席して下さるだろうと不安も覚えました。

しかし、毎年実施している各課程の同窓会をこれにあて、ほとんどの人が出席してくれた課程や、声を掛け

あつて参加してくれた課程もあり、11月13日(日)、ホテル日航には53名の参加を得ました。

懐かしい顔ぶれとはいえ、40年近い歳月は面影を変え、受付では顔と名前が一致せず戸惑う姿も見られましたが、ふとした仕草や口調から昔の姿がよみがえり、一人ずつの自己紹介が過ぎる頃には、すっかり学生時代にタイムスリップ。和気あいあいとした雰囲気の中で会が進みました。話題は、学生時代の行事や授業、部活動のこと、先生や友人の近況、仕事や家庭のことなど多岐にわたり懐かしく楽しいひと時を過ごせました。

今回は4年後。それまで元気で過ごし再会できること、今回以上に多くの学友と会えることを願っています。また、幹事として準備を進める過程も楽しかったので、一緒に幹事をしてくれる方も募っているところです。

昭和48年卒同窓会が私たちのこれからの人生の彩りの一つになることを願っています。



第5回同窓会の開催

昭和39年卒 藤井 正紀

39年卒同窓会は、9月11日に奈良春日ホテルで開催しました。参加者は男性10人と女性13人の23人でした。台風12号の関係で吉野や十津川からの参加予定者が出席できなかったのは残念でした。参加者は大部分が奈良県内ですが、大阪、兵庫、三重からも駆けつけてくれ、お互いの元気を喜びあい、開始前から盛り上がっていました。

まず東日本大震災の犠牲者と同級生の物故者に黙祷をささげ、そして今回の同窓会は古希を祝う集まりで、幹事の一人は奥さんと手作りの箸置きを作ってきてくれ温かな雰囲気の中で、年次幹事の音頭で乾杯をおこない宴会が始まりました。

今回は全員が「3分間スピーチ」を行いました。その内容は多彩でしかもユーモアとウィットに富んだもので、医者や病気との付き合い方、趣味や旅行の話、家族や孫との苦勞と喜び、仕事やボランティア活動などなど・・・であつという間に3時間過ぎてしまいました。新しい幹事を選び、また近い間の再会を約束して、無事終了しました。



34年卒一部同窓会・「34会」毎年開く

昭和34年卒 福森 修平

今年で11回目の「34会」、平成24年3月4日「春日野荘」で開催。以下、不参加の方にも届けた同期会通信「34会だより」(平成24年3月12日発行)より抜粋・要約。

当日は小雨模様だったが、開会時刻までに、今回初めて参加される2名を含め、19名全員揃う。遠くは東京・岡山・福井からいつも来られる仲間には、心から敬服すると共に力強く嬉しく思う。全員揃ったところで記念撮影。今回から要望により椅子席がある部屋で会を行う。始めに物故者に黙祷。N君の乾杯の音頭で始める。歓談交流で会話弾み、時がたつのを忘れました。次年(12回)は平成25年3月4日(月)に開催。・・・(略)



「傘寿」の同窓会に思う

昭和26年卒 北 良夫

奈良教育大学の前身奈良師範学校に、将来教員を志す尋常高等小学校の卒業生を受け入れる、「予科」課程が設置されたのは、1943年（昭和18年）、しかし戦後の教育改革のため僅か4年で廃校となった。

私たちは、戦後間もない1947年4月に入学し、後輩を持たない「予科」の学校生活を送った。古びた奈良女子師範学校校舎（奈良市鍋屋町）に1年、そして3年間を、男子師範学校の校舎（奈良市登大路町）で学び、1951年3月、卒業証書ではなく修了証書を頂いた。（奈良師範学校はこの年をもって廃止となった）

その後、新制奈良学芸大学を再受験、仲間はそれぞれが希望する課程で教員を目指した。

時代は今、NHKが放映している朝ドラ、「梅ちゃん先生」に重なる。

戦前、戦後の混乱した世相の中で、一部の先輩は予科3年と本科2年の5年で教員になったと云う例外もある中で、私たちは教育改革のあおりを受けて、予科4年と新制大学4年の8年がかりの教師への道程であった。しかし、今にして思えば、長かった同窓時代があったからこそ、その絆は強いものがある。

1組担任村上光博先生、2組担任坂口杲一先生、両先生の名前から「杲光会」と名付けた同窓会が、社会人になって20年後の、1975年から始まり今も続いている。

初めの頃は、隔年に開催してきた「杲光会」は、還暦（1992）を機会に毎年開くことになったが、出席者の顔ぶれはだんだんと固定してきた。

この同窓生が、今年80歳となり、秋は「傘寿」の節目の会となる。入学したときは86人の級友は徐々に減って、五十音順で務める幹事役の回転が速くなっている。「最後の幹事を務めるのは誰やろか」と、酒のあての話題で盛り上がる最近の同窓会である。

中国の書家で詩人の沙孟海が、80歳になった友人に贈った時に「100歳は古来稀なり、90歳は奇とするに足る無し、80歳は大いに為すべし」とある。

古稀を100歳とし、あとは7掛けという人もいる。80歳の7掛けは56歳、まだまだくたばるわけにはいかない。

「50、60鼻たれ小僧、70、80花盛り、80、90で迎えが来たら、100まで待てと追い返せ」と、奈良学大同窓の友、京都大仙寺の開栖、尾関宗園和尚は喝破する。心にとどめておこう。



平成23年度 杲光会 2011年10月7日 於春日野荘

若い力に期待して

毎年2月、大阪市内のホテルの会場に、「天平の輝く薨・・・」と学歌の大合唱が起こります。大阪市内の幼稚園・小学校・中学校に勤める奈良教育大学の卒業生が、年に一度の「同窓会」に、三々五々集まってきます。大学を出たばかりの若者も、この同窓会の集まりをつくってくださった退職した先輩方も、日頃の勤務に少し疲れ気味の現役も、乾杯の音頭とともに、四方山話に花が咲きます。「今の400mのグランドなんてなかったので、広っぱみたいところで走ってたな」「大きなプールがあったけど、風呂みたいに入ってたよ」「伊勢二見の臨海、潮水も飲んだけど、夜もぎょうさん飲んだな」「学園祭では・・・」時空は違えども同じ大学で学んだ者どうし、卒業年次順に初めは座っていても、暫くするとグラス片手に交流の輪が広がっていきます。大学の学長様、本部同窓会の会長様の励ましの言葉に続き、本部同窓会事務局長の「今日は良い日だ・・・」の歌が飛び出す頃には、宴もたけなわとなってきます。今年の同窓会では、独りで二本のリコーダーを使っただけの演奏や、短縄を自在に駆使しての縄跳びの妙技の披露があり、若手の教員から「教えて欲しいな」との声がありました。

ところで、大阪市内には、興東会という組織があり、会員相互の親睦を図りながら、研修に努めてきています。今回、この若い先生方の声を吸い上げる形で、夏季研修会の中に、リコーダーと縄跳びの研修を取り入れることにし、従来からの教頭・壮年部研修と合わせて共に充実したものにしていきたいと考えています。

大阪市興東会会長 近藤 義之

とかく、大阪市のことが全国的にも取り上げられていますが、教育の「不易と流行」をしっかりと見定め、地に足のついた実践力のある若手教員を育てていくことが何よりも大事なことだと思います。大阪市でも、教員の年齢構成がワイングラスに例えられているような現状から、あと10年以内に確実にピラミッド型に移行します。しかし、子どもたちの生活指導や保護者対応に追われる毎日の中では、なかなかじっくり自分を磨くということができないのが現状です。興東会として、少しでも若手育成の一助となるべく組織の拡大と研修の充実に、退職校長会の力もお借りしながら、これからもがんばっていききたいと思います。

先に、本部同窓会総会に参加させていただきました。帰り道、素晴らしい歌声に感動の余韻が残る中、久しぶりに奈良の街中を散策し、著名な酒蔵で「きき酒」をしました。若いスタッフの熱心な解説付きで味わう美酒に、同じ蔵元で作っても、米の磨き方や酒袋の搾り方などで違いができることを改めて感じました。

若手育成の極意も、そこにあるのかも知れません。



研修会だより

目から鱗の同窓会と一日研修

昭和35年卒 飯原 隆美

昨年は、大和郡山市支会総会に出席し、続いて、一日親睦見学会「関宿」にも参加させていただきました。

両同窓会共、本当になごやかな和気あいあいの楽しい会でした。何人もの方との思わぬ出会いもありました。

支会総会では、長田光男先生による「春日参道」に関する講話があったのですが、特に私は興味深く聞かせていただきました。

実は、私の居住している集落（大和郡山市椎木町）は、春日若宮のおん祭りと深い関わりがあるのです。菰上げ（こもあげ）と称して、若宮の神様がお移りになる御旅所の、主に内装に使うむしろを毎年奉納しています。

それは、水辺に生えているイネ科の植物マコモを土用の頃の暑い季節に刈り取り、一気に乾かし、それで纏んだものです。

でも、おん祭りの行事には関わってききましたが、春日若宮創設に、複雑な歴史的経緯があったことや、若宮の神様は名前の通り、子どもの神様だということも全く知りませんでした。初めて教えられることばかりで驚きの連続でした。

親睦見学会は、東海道五十三次の47番目の宿場町「関宿」で、古い街並みがよく保存され、独特の情緒が漂ういいところでした。

案内は、前回と同様長田先生で、今回

も詳しい説明を熱心にしていただきました。

ご説明の中で、私が一番関心を持ったのは「むくり屋根」です。

むくり屋根は、屋根の面が平面ではなく、凸状にゆるやかに反った曲面なのです。これは普通の屋根の葺き方よりも一段手の込んだ葺き方だとの説明でした。

私の家の棟の屋根も同じ葺き方だったのですが、屋根の名前は初めて知りました。

父親から相続した私の家もかなりの年代物で、傷みがひどく、自分流の工法と技術で修理と改造を重ねてきました。

もちろん、瓦の点検や補修も自分でやってきましたが、むくり屋根には、ほとんど手を加える必要がありませんでした。屋根全体が一枚岩のようにがっちりしていて、瓦のどの部分に体重をかけてもびくともしません。

先生の説明をお聞きして、この屋根の強さの謎が解けたような気がしました。

古い家に住むことに対して、いささか恥ずかしい感情を持ち続けてきましたが、今改めて我が家を見直しています。

自分に関わることで、これだけいろいろお聞きできたことは、単なる偶然とは思えない不思議さを感じています。長田先生はじめ、役員の方々や、幹事の方々に厚くお礼申し上げます。

● 第13回 研修会のご案内 ●

第13回研修会は昭和34年、本学音楽科卒の佐藤直子氏の講演を予定しています。

卒業後、短歌に魅せられアララギ、

記

■日時 平成24年11月17日(土)

午後1時30分～3時

■会場 学生会館談話室

■演題 「短歌に魅せられ30年

楽しみか 苦しみか？」

■講師 佐藤 直子 氏

■略歴 昭和34年 奈良学芸大学卒業

平成4年 「アララギ」入会

平成10年 「青南」入会

平成18年 「愛媛青南」入会

「青南」「愛媛青南」に投稿を続け
現在に至る。

■歌集 「初生りの柚子」

文芸出版社 平成7年 他多数

青南の同人として活躍され多くの歌集を出版されています。ちなみに、氏は、本学名誉教授の故佐藤一郎先生(植物学)のご長女です。



※お誘い合わせのうえ、多数のご参加をお待ちしています。
一般の方も歓迎しています。

表紙の絵について

昭和42年卒 木 原 徳 子
馬頭壁と甍の波

画材地は、中国安徽省山水画に多く描かれている世界遺産「黄山」近郊に点在している古村落の一つ「西递村」(世界遺産)である。誕生は南宋時代交易で栄えた徽州商人が豊かな富を駆使して建てた邸宅があり、村の特徴でもある馬頭壁(馬の頭のような形をした先の尖った壁で、財力で高さを競い防火の役も)が、

狭い路地を挟んで密集して立っている。年を経てまだらになった白壁と、黒い甍の組み合わせの魅力にひかれ、多くの画学生や建築を学ぶ学生達が随所でスケッチをしていて、黄山を訪れる観光客と共に村内は賑わっている。

書をしている主人と中国各地を訪れ、ガイド女史の故郷でもある黄山へは何度か案内してもらい、画材地に巡り合った。退職後、大作を描くようになって古村落を画材のテーマに決め、歴史ある建築群の荘重さと風格を表現出来たらと励んでいる。

事務局だより

- 母校奈良教育大学は、今年度から学校教育教員養成課程（定員255名）、大学院教育学研究科（定員70名）、特別支援教育と区別専攻科（定員15名）の編成で学校教育教員養成に特化しました。
明るい話題の少ない世の中ですが、学校教育教員の採用については、今後も希望のもてる見通しようです。卒業生・修了生の健闘と大きな飛躍を祈ります。
- 今年度総会で会則の改定を承認いただきました。運営に関わる記述を現状に合わせて整理しました。
会費の値上げは禁じ手ですので、納入方式を小さく変え年会費1口1,000円、2口以上とさせていただきます。みなさまのご厚意に甘えようとする安易な仕草です。詳しくは会長挨拶で述べさせていただきます。既に3口・5口と本年度会費をお送り下さっています。有難いことです。
- 23年度決算報告は本報に掲載しましたが、会務報告、24年度活動方針、予算、役員・理事、評議員、委員会の構成については同窓会のホームページをご覧ください。
- 同窓会のホームページは、奈良教育大学のホームページからお入り下さい。URLは、<http://www.nara-edu.ac.jp/>ですが、検索「奈良教育大学」で到達できます。トップ・ページ右欄メニューの同窓会をクリックして下さい。
長い間、ご不自由をおかけしましたが、ずいぶん使い勝手が良くなりました。大学のホームページもすっかりあか抜けし見やすくなりました。母校の現況などもご覧いただければと願っています。
- しかし同窓会のホームページは、一昔前の頭で動いていますので、野暮ったいことこの上なしです。若い方のご援助・ご協力をお願いします。またホームページの改善について、ご意見をお寄せ下さい。
- 毎年のことですが、会費の納入をお願いします。納入方法は4ページに載せています。今年になって気づいたのですが、会員の多くの方が「ゆうちょ」貯金口座をお持ちです。ゆうちょ銀行では口座間の送金は手数料無料です。会計を預かるものとして、満額の会費収入となりますので、大いにご利用下さるようお願いいたします。ATM送金では80円、窓口扱いでは120円の手数料がかかりますが、本会の負担になっています。
- 会員の逝去に際して、弔電を打たせていただきます。知りうるのは新聞紙上と会員からの連絡に限られています。特に女性の方、県外の方の消息はつかみかねています。ご連絡をよろしくお願いします。

- 転居・改姓・住居表示変更などは、速やかに事務局までお知らせ下さい。
- 同窓会への連絡には、下記の方法があります。

郵便：奈良教育大学内 同窓会事務局
電話：0742-27-9105（大学総務課経由）
0743-77-8848（事務局長自宅）
090-1022-8370（事務局長携帯）

E-mail:sugimoto@nara-edu.ac.jp

事務局長は、昭和37年卒の杉本彦之です。

- 個人情報の保護には、万全を期しています。お問い合わせの内容によって不本意な回答になるかと思いますが、ご理解下さい。

編集後記

- 青葉、若葉の美しい大学構内の山田ホールにおいて開催された同窓会総会に、今年も多数の会員が集い親睦を深めました。長年、こどもたちの教育に精魂を傾けて取り組んでこられた人々の、端正で真摯な姿に接し心からの喜びを感じることができました。
- 会報「まほろば」25号をお届けいたします。表紙の絵は、木原徳子氏（昭42卒）にご提供いただきました。海外に画材を求めておられる氏の作品に大きな夢が広がります。
- 会員の皆様方のご投稿をお待ちしています。多様な分野でご活躍されている会員の皆様の様々な情報、同窓会やクラス会における思い出の数々、日常生活の中で目にしたり考えたりするちょっとしたことなど、写真があれば添えてご投稿いただければなおありがたいです。
- 同窓会の活動にご支援ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。
- 本会前会長の小川クニ子氏のご逝去されました。長年のご功績に対して、敬意と感謝の意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成24年度広報委員会委員（五十音順）

北 良夫、倉本政太郎、柴井真由美
中村 利典、西尾 千尋、橋本 清
松原 さおり

平成24年6月23日 発行

奈良教育大学同窓会会報「まほろば」第25号

— 編集 故 川瀬勇元会長 —

発行所 奈良教育大学同窓会事務局
〒630-8301

奈良市高畑町 奈良教育大学内

☎0742-27-9105（総務課経由）

郵便振替番号00900-2-9400

発行兼編集 奈良教育大学同窓会広報委員会

印刷所 関西印刷株式会社

奈良市南平田中町19-20番地